

平成 22 年度 法科大学院（法務研究科）既修者認定試験

刑 法 問 題 紙

A 日程

平成 21 年 10 月 25 日

16 : 00 ~ 17 : 30 (90 分)

(120 点)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、問題を開いてはいけない。
2. 刑法の問題紙は 1 ページのみである。
3. 解答用紙は、問題 1 と問題 2 の 2 枚である。解答用紙の追加は認めない。
4. 解答用紙は 2 枚ともかならず提出すること。
5. 監督者の指示に従い、すべての解答用紙に受験番号と氏名を記入すること。
6. 解答はすべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
7. 試験終了まで退室してはいけない。

北 海 学 園 大 学

問題 1 (70 点)

仲の良い友人である甲男，乙男，丙女が，夜間の歩道上で雑談をしていたところ，酩酊して通りかかったVが言いがかりをつけてきて言い争いになり，Vが丙の髪をつかんで引き回す等の乱暴を始めた。そこで甲と乙は，これをやめさせるために素手でVに暴行を加えたところ，ようやくVが丙の髪を放した。しかし，Vは後ずさりをしながらも甲らに悪態をつきその場から立ち去ろうとしないので，甲と乙は，Vを追い払うようにして約 20m離れた駐車場に移動した。ところが，なおも応戦の態度を崩さないVに，甲がその顔面を手拳で殴打したためVは転倒してコンクリート床に頭部をぶつけ，重傷を負った。乙は，Vに謝罪を求めて甲について行ったものの，Vに暴行を加える意思はなく，甲の突然の暴行に驚いてその場に立ちつくしていた。

甲および乙の罪責を論ぜよ。

問題 2 (50 点)

大学 4 年生の甲は，夏休みを利用して地方に住む祖父 A 宅に遊びに行った際，仏壇の引き出しに入っていた記念金貨（時価 10 万円）を見つけた。遊興費に困っていた甲は，これを換金して小遣いにしようと考え無断で持ち出した。甲は，この記念金貨を祖父 A の物と思っていたが，実はAが友人 B から預かって保管していた物であった。

甲の罪責を論ぜよ。